

# 京都大学教育研究振興財団助成事業 成 果 報 告 書

2026年 1月 19日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 大学院医学研究科 侵襲反応制御医学講座麻酔科学分野

職名・学年 博士課程4年

氏名 櫻井 洋太朗

助成の種類	令和7年度・国際研究集会発表助成		
研究集会名	Anesthesiology2025 (米国麻酔学会学術集会2025)		
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待・ <input checked="" type="checkbox"/> 口頭・ <input type="checkbox"/> ポスター・ <input type="checkbox"/> その他(		
発表題目	Association of anesthesia methods for limb and lower abdominal surgeries with postoperative outcomes in patients requiring home oxygen therapy: A nationwide cohort study in Japan		
開催場所	San Antonio, TX, US   Henry B. Gonzalez Convention Center		
渡航期間	2025年 10月 10日 ~ 2025年 10月 14日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度で作成し、添付して下さい。 「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( )		
会計報告	交付を受けた助成金額	350,000円	
	使用した助成金額	350,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳 (差し支えなければ要した 経費総額をご記入ください)	費目	金額(円)
		航空運賃	244,670
		宿泊費	84,429
		滞在費	
		学会参加費	35,250
		その他	
		以上に助成金を充当	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 昨今の円安と物価高により学生の身分で全額自費でのアメリカ出張となると財務の面でかなり困難でしたが、この助成金のおかげで安心して国際学会で発表することができました。		

## 成果の概要/櫻井洸太朗

この度は、令和7年度京都大学教育研究振興財団 国際研究集会発表助成に採択いただき、誠にありがとうございました。多大なるご支援を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。下記の通り、国際学会への出席および研究発表を行いましたので、その成果を報告いたします。

1. 学会概要 2025年10月10日から14日にかけて、アメリカ合衆国テキサス州サンアントニオにて開催された「Anesthesiology 2025（米国麻酔科学会年次学術集会）」に参加いたしました。本学会は、世界最大規模の麻酔科学領域の学術集会であり、世界各国から著名な麻酔科医や研究者が集い、最新の知見や研究成果が発表される場です。
2. 発表内容 私は本学会において、「大規模医療情報データを用いた在宅酸素療法(HOT)患者の麻酔方法の評価」というテーマで口演発表を行いました。本研究は、在宅酸素療法(HOT)を受けている患者に対する四肢・下腹部手術における麻酔管理について、大規模な医療情報データベースを用いて解析を行ったものです。従来、呼吸機能が低下しているHOT患者に対しては、全身麻酔はリスクが高いと考えられており、区域麻酔が推奨される傾向にありました。しかし、本研究の結果は、全身麻酔が区域麻酔と比較しても同程度に安全である可能性を示唆するものでした。これは、従来の臨床的な通説に一石を投じる革新的な内容であり、今後の周術期管理の選択肢を広げ、患者の予後改善に寄与しうる重要な知見であると考えております。
3. 成果と今後の展望 発表当日は、各国の専門家から鋭い指摘や建設的なフィードバックをいただき、活発な質疑応答を行うことができました。自身の研究に対する国際的な評価を肌で感じることができたことは、研究者として非常に大きな自信となりました。また、滞在期間中は、世界的に著名な麻酔科医による講演を多数拝聴し、最先端の麻酔管理や鎮痛法に関する知見を深めることができました。これらの学びは、今後の自身の臨床および研究活動に直結する貴重な糧となると確信しております。
4. 謝辞 私にとって今回が初めての国際学会での発表であり、渡航や滞在にかかる費用面での不安が大きな障壁となっていました。しかしながら、貴財団からの助成をいただけたことで、経済的な不安が軽減され、研究発表の準備や当日の学術活動に専念することができました。このような貴重な機会を与えてくださった貴財団の皆様に、改めて深く感謝申し上げます。今回の経験を糧に、今後も医学の発展と患者様の安全のために精進してまいります。